



Data

監督・脚本: ヤン・ウソク
出演: チョン・ウソン/クァク・ド
ウォン/ユ・ヨンソク/アン
ガス・マクファーデン/ア
ン・ネサン/イ・ジェヨン/
シン・ジョングン/ヨム・ジ
ヨンア

👁️👁️ みどころ

今なお停戦状態にある朝鮮戦争の終結と南北統一は、米朝首脳会談で実現するの？トランプ大統領時代にそれが期待されたが、本作に見る北朝鮮での米韓朝3国の首脳会談は？

そんな状況下、突如起きたクーデターの目的は？首謀者は？北朝鮮の原子力潜水艦「白頭号」に三首脳が共に拉致されたのはなぜ？狭い艦長室で3人はどんな“密談”を？

これはすごい！誰がこんな企画を？こんな脚本を？米韓のNO. 2は如何に？韓国は？日本は？中国は？

潜水艦モノは面白い。それを確認しつつ、迫力満点の魚雷戦と爆雷戦をしっかり味わいたい。しかして、本作の結末は如何に？ハッピーエンドであることを願うばかりだが・・・。

———— * ——— * ——— * ——— * ——— * ——— * ——— * ——— * ——— * ——— * ———

■□■これはすごい！誰がこんな企画を？こんな脚本を？■□■

2016年11月の大統領選挙で民主党のヒラリー・クリントンに勝利し、2017年1月に彗星の如く(?)登場したトランプ大統領が北朝鮮の金正恩総書記との直接対談を希望し、それを実現させた姿には全世界が驚かされた。それから4年、バイデン大統領に交代したアメリカの対北朝鮮戦略は？そして、米韓同盟は？そんな動きをいつもハラハラしながら見ている日本は、竹島有事、朝鮮半島有事、台湾有事の際、“基軸”としている日米同盟(日米安保条約)をどう解釈・運用して在日米軍と共闘していくの？2015年に“集団的自衛権”を容認する安保法制が制定されたのは喜ばしいことだが、平和で豊かな民主主義国日本では、そんな“危機”についての認識は薄い。

そのことは、中国、韓国と日本の映画界を比較しても明らかだ。中国では近年、“戦狼外

交”が際立っているが、その先鞭をつけた(?)のが、大ヒットした『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2 (戦狼2)』(17年)、『シネマ44』43頁)だ。『八佰』(20年)、『シネマ48』190頁)等を含む、“国策映画”ともいえる中国発の戦争映画大作の大ヒットは目立っている。韓国でも、『長沙里9.15』(19年)、『シネマ47』221頁)等の戦争映画の名作は多い。

しかして、2021年12月に公開されるヤン・ウソク監督の本作は一体何?彼の監督デビュー作たる『弁護人』(13年)、『シネマ39』75頁)は、観客動員数1100万人を突破する大ヒットを記録したが、彼の第2作『鋼鉄の雨』(18年)は、ウェブ作家でもある彼が書いた『鋼鉄の雨』を自身で映画化したもの。そしてこれは、現実の国際情勢を踏まえた出来事をダイナミックに投影し、南北分裂の壁を乗り越え、平和に向かうためには何ができるだろうか、という歴史的側面に果敢に切り込んだものらしい。

しかして、英題を『Steel Rain 2 : Summit』とした本作は、第1作の主演陣を引き継ぎながら、第1作の世界観を大きく広げた全く新しい内容らしい。本作の“主役”は何と、①韓国のハン・キョンジェ大統領(チャン・ウソン)、②北朝鮮の最高指導者チョ・ソンサ委員長(ユ・ヨンソク)、③アメリカ合衆国のスムート大統領(アンガス・マクファーデン)だから、何ともしごい。ヤン・ウソク監督、よくぞこんな企画を!脚本を!

■□■ “停戦状態”の朝鮮戦争の終結は?米朝平和協定は? ■□■

平和で豊かな日本では、エンタメ映画、純愛映画が多くなり、骨太の問題提起作も戦争モノも少なくなっている。しかし、朝鮮半島では1950年~53年の朝鮮戦争は今なお“休戦状態”にあるから、朝鮮戦争の“終結”と、その後の北朝鮮と韓国の南北統一を巡る駆け引きが一貫して続いている。また、弱小国であるにもかかわらず、建国以来ずっと中国を後ろ盾に核開発でアメリカに対抗してきた北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の3代目首領、金正恩は、トランプ大統領と波長が合ったらしく、“米朝首脳会談”を志向してきた。そんな近時の情勢下の米朝のテーマは“朝米平和協定会談”だ。その具体的内容は、第1に北朝鮮が保有している核弾頭をアメリカに渡し、第2に平和協定を締結し、外交関係を樹立することだ。

2時間12分の本作は、導入部で三者首脳会談に臨む①ハン大統領、②チョ委員長、③スムート大統領の3人が登場するので、それに注目!チャン・ウソン扮するハン大統領がハンサムで上品なのは当然だが、スムート大統領は?私には、なるほどピッタリだが……。他方、チョ委員長が本物よりずっと細身でシャープ、そして神経質に見えるのはかなり意外。さらに、ハン大統領以上に彼の英語が達者なことにもビックリだが、北朝鮮の元山(ウオンサン)にある高級ホテルの1室で開催されたこの三者の首脳会談の展開は如何に?

首脳会談の前には実務者会議で事実上の合意ができてるのが常識。それは本作でも同じだったが、通訳だけを交えた三者会談の席でスムート大統領は、突如「核兵器の視察を先に終えなければ、署名はできない」と主張。それに対して、チョ委員長も「国交を先に

結ばなければ、核は渡せない」と突っぱねたから、さあ大変だ。

■□■導入部では、日韓朝それぞれのこんな実態に注目！■□■

2021年9月17日現在の日本は自民党総裁選挙の報道で盛り上がっているが、本作導入部では、第1に日本とアメリカが手を組み、政治的にも軍事的にも中国を壊滅させる極秘戦略「影武者作戦」が計画されているので、それに注目！これは一体何？この黒幕は、日本で強力な権力を持つ大和財団の森（白竜）だが、森と密会した中国の高官は、「影武者作戦」に強い危機感を募らせ、攻撃の矛先を韓国に向かわせるべく、大和財団への裏資金提供を約束したから、こりゃ、かなりヤバい・・・？

他方、大統領選挙が来年3月に迫っている韓国では、恒例どおり（？）、現職の文在寅大統領のレームダックぶりが顕著になっている上、与野党の候補者が乱立する中、先行きが見通せない状況になっている。しかし、本作導入部では第2に、仕事ぶりはともかく（？）家庭では家族円満で、ほほえましい夫ぶり・パパぶりを見せるハン大統領の姿が登場するので、それに注目！

平和な（？）日本や韓国に対して、北朝鮮では現在、金正恩の独裁体制が表面上確立しているが、2017年にマレーシアの首都クアラルンプールで起きた金正男殺害事件に見られるように、水面下での権力闘争は今なお続いているはずだ。本作導入部の第3にヤン・ウソク監督が登場させる北朝鮮のキーマンは、北朝鮮護衛司令部総局長のパク・ジヌ（クァク・ドウオン）。「これまで通り中国との同盟を継続することこそが北朝鮮が繁栄し得る唯一の選択肢」と考え、「中国との衝突は避けなければなりません」とチョ委員長に進言している彼は、どんな思想・信条の男？そして、本作の本格的ストーリー展開に向けて、彼はどんな行動を？

■□■前代未聞のクーデター勃発！決起者の思想・信条は？■□■

日本では、1932年に「五・一五事件」が、1936年に「二・二六事件」が起きたが、本作に見る、パク総局長が決行したクーデターは、北朝鮮の元山（ウォンサン）にある豪華ホテルで開催していた三国首脳会議のトップ3人をまとめて拘束するという、前代未聞かつ世界的影響大のものだ。「アメリカに核兵器を渡したら、北朝鮮は韓国に吸収される運命になる」と信じ、武装部隊を率いたパク総局長は、北朝鮮初となる弾道ミサイルを搭載した原子力潜水艦「白頭号」に3人を拉致監禁したが、彼の要求は一体何？

クーデター的首謀者ではあるが、政権に対するテロリストではなく、国家と国民の正義者であるという揺るぎない信念を披露しながら、敢然とチョ委員長に物申す彼の姿は、ある意味で立派なものだ。しかし、彼の計画には、北朝鮮が日本に向けて核ミサイルを撃ち込むことの代償として中国から成功報酬100億ドルと毎年50億ドルの援助金を得る約束を取り付けており、その金で人民の生活を安定させたいという切実な思いも含まれていたから、その当否は？五社英雄監督の『226』（89年）（『シネマ47』257頁）や、NHK、BS1の『全貌 二・二六事件～最高機密文書で迫る～』等で観たように、「二・二

六事件」に決起した青年将校たちの信念は天皇陛下に届かず“死刑”にされてしまったが、パク総局長の処分は？

憲法9条さえ守れば戦争は起こらず、平和は守られる。そう信じこんでいるノーマン気な日本人は、パク総局長の主張はもちろん、それに対するチョ委員長の反論を含めて、しっかり考える必要がある。

■□■「白頭号」内のサミットは？副艦長がキーマンに！■□■

北朝鮮が「白頭号」のような立派な原子力潜水艦を保有していたことにはビックリ。しかし、日本で大ヒットした、かわぐちかいじの漫画『沈黙の艦隊』（講談社刊、1988年～96年連載）でも、日本は密かに立派な原潜を保有していたから、どっちもどっち・・・？それはともかく、パク総局長が三首脳を“究極の密室”である原潜「白頭号」の艦長室内に拉致監禁したのは大正解だ。艦長はパク総局長の実弟だから、彼の意思に絶対服従してくれるはずだ。

本作導入部で見た三首脳会談は通訳を介した公式のものだったが、潜水艦はいくら艦長室でも狭いから、そんなところに大男のスムート大統領も含めた男3人が押し込められたら大変だ。そこで、下ネタ風のストーリーが展開されるのが韓国流なら、そこで見せるハン大統領はあくまで紳士的だから、これも韓国流？それに対して、艦長室内では、スムート大統領のハチャメチャぶりが目立つが、同時にチョ委員長の英語能力の高さが際立ち、ある意味彼が三者の議論をリードしていくシーンも生まれるので、それにも注目！

他方、原潜「白頭号」は北朝鮮の貴重な戦力であり、北朝鮮の唯一無二の首領はチョ委員長だから、そこでチョ委員長とパク総局長との大激論が展開されたのは当然。しかし、この両者の議論はどこかでまとまる可能性はあるの？本作で面白いのは、「白頭号」の副艦長チャン・ギソク（シン・ジョングン）の存在だ。彼は、過去の“ある失敗”によって階級を格下げにされていたが、祖国を思う気持ちはパク総局長と同じ。しかし、彼の思想・信条はパク総局長や艦長のそれとは大きく違っていることが、本作（脚本）のポイントになる。もちろん、真正面から艦長やパク総局長の意見に逆らっても無駄なことがわかっていて、彼は、艦長室の放送スイッチをオンにセットしたが、その狙いはナニ？それによって、三首脳生の声を聴くことになった乗組員たちの反応は？

彼らにとって首領様は神様と同じ存在。そんな首領様が今艦長室に監禁されているらしい。すると、「俺たちが首領様を救い出せば、一躍英雄に！」、そう考えたのは当然だ。そんな中で起きた、「白頭号」内での銃撃戦の展開は？その結末は？

■□■米韓のNO. 2は如何に？韓国は？日本は？中国は？■□■

大統領が北朝鮮のクーデターによって拉致監禁されたことを知った米国では、直ちに副大統領が大統領権限を承継したが、その対処は如何に？現在の米国では、新大統領バイデン氏が高齢のため、“万一”の時は直ちにハリス副大統領が大統領権限を行使する役割が公然と語られている。それは、トランプ大統領の時代でも同じだったはずだが、何かと個人

的パフォーマンスや独断専行が目立ち、副大統領の存在感が薄かったあの時代に、もしトランプ大統領が北朝鮮で拉致監禁されていたら・・・？そんな興味を持って本作を観ていると、米国副大統領の“非情”ともいえる決断にも納得・・・？他方、非常事態の勃発は韓国も同じだが、韓国の NO.2はこんな事態の中、どこまで大統領権限を行使できるの？自国のトップの死亡を含むリスクを考えながら、米国と韓国がこんな非常事態にどう対処するのかクレーターの当事者（被害者）国としては最大のテーマだ。

そして、それは自国内で起きたクレーターとはいえ、首領様が拘束された北朝鮮も同じはず。しかし、首領様がいなくなった北朝鮮労働党の動きは本作では一切描かれないから、私にはそれが少し不満。それは、原作者のヤン・ウソクでもなかなか描けない世界かもしれないが、それに代わって本作で生き生きと描かれるのが、「白頭号」内でのチョ委員長とパク総局長との激論だ。

米国の国家安全保障会議では当然北朝鮮への報復攻撃が検討されたが、そうなれば大統領の死亡は必至。そんな中、薬物注射によって「影武者作戦」の内容をベラベラと喋ってしまったスムート大統領は、副大統領以下、国家安全保障会議のスタッフが注視する中、どんな“公開メッセージ”を？そんな状況下、日本は今回のクレーターの当事者国ではないが、同盟国たる米国が北朝鮮で拉致監禁された今、どう動けばいいの？さらに、こんな事態の中、北朝鮮のバックにいる中国は一体どう動くの？

■□■潜水艦モノは面白い！副艦長の動きに注目！■□■

潜水艦モノは面白い。それは私の持論だが、それは『Uボート 最後の決断』（03年）（『シネマ7』60頁）や『K-19』（02年）（『シネマ2』97頁）等々を観ればよくわかる。その理由の1つは、「密室モノは面白い」に通じる“密室性”だが、本作は「白頭号」という密室の中で、米韓朝3国のリーダーを拉致監禁するクレーターという、人類がこれまで1度も体験したことのない大騒動が展開していくのだから、面白いのは当然。さまざまな争いの中でも、潜水艦の操艦は誰かがきっちりやらなければならないから、そのバランスも大変だ。狭い潜水艦の中で、更に狭い艦長室に監禁された3人の首脳たちは、“下ネタ”を含む様々なトラブルやスムート大統領の薬物注射の展開を経て、それなりに心が通じ合っていくから、その過程も面白い。

そんな後半に入ってから俄然存在感が増すのが、チャン副艦長の役割だ。パク総局長の信念に同調することができない彼は、日本に向けて核ミサイルを撃ち込むことに反対なら、三首脳をこんな形で拉致監禁することにも反対。まして、艦内での銃撃戦の結果、三首脳が死んでしまったり、「白頭号」が沈んでしまうことは絶対に避けなければならない。そう考えた彼は、艦長室に食事を運んだ際に、ちょっとした工夫で“あるメモ”を渡すことに成功。「白頭号」艦内に、自分たちの安全保持のために協力する人物・勢力がいることに気づいた三首脳がこれに勇気100倍したのは当然だ。しかし、艦内での対立と銃撃戦は激しくなる一方だから、アメリカ大統領と韓国大統領の命は刻一刻と危うくなってきた。そ

ここで、チャン副艦長は最後の手段として、ある脱出装置を使う決心をしたが、その定員は1名だけ。椅子をばらしても2人乗るのがやっとだ。そんなぎりぎりの局面下、三首脳の決断は？

「白頭号」は北朝鮮の原潜だから、当然チョ委員長が残り、対立する乗組員たちはチョ委員長の権限で説得すればいい。誰もがそう思うところだが、本作のストーリー展開は如何に？現実味たっぷり、かつ切迫感もたっぷり。手に汗握るそんなスリリングな展開に注目！

■□敵の原潜登場！哨戒機登場！魚雷戦は？爆雷戦は？■□

現在の河野太郎、岸田文雄、高市早苗、野田聖子の4氏による自民党総裁選挙では、当然朝鮮有事、台湾有事をめぐって日本はどうするべきかが議論されているが、この4人は本作を鑑賞したのだろうか？本作を観ていない間の議論と、鑑賞後の議論にはきっと大きな差があるはずだ。「白頭号」はもちろん海の中に潜って航行しているが、その場所はどこ？「白頭号」の位置を各国が把握しているのも当然だから、その攻撃に向けて米韓日の原潜を含むさまざまな艦船や航空機が投入されたのは当然だ。

しかし、あいにく当日は超大型台風の影響に伴う“スティール・レイン（鋼鉄の雨）”だったから、日米韓の軍艦も航空機も自由な運用はできないらしい。しかし、そんな悪天候下でも潜水艦なら自由な航行が可能だ。さあ、米韓日の潜水艦は、「白頭号」に対していかなる行動（攻撃）を？また、悪天候でも無理やり哨戒機を飛ばせば、哨戒機から「白頭号」に対して爆雷を投下することは可能だ。しかし、本作のクライマックスに向けて哨戒機の動き（攻撃）は？

潜水艦同士の魚雷戦はその大半が知能戦・神経戦だが、内部的にも外部的にも危機的状況を迎えている「白頭号」の魚雷戦を指揮するのは一体誰？そこで負ければ、「白頭号」は艦内に1人だけ残ったハン大統領と共に乗組員は全員死亡。危機は刻一刻と迫り、“原子力潜水艦爆破まで残り9秒”になったが・・・。

「三國志」ゲームも面白いかもしれないが、本作に見る米韓日 vs 「白頭号」のリアル戦闘劇は実に興味深いから、しっかり鑑賞するとともに、その戦いの後に訪れる本作の最後の結末（ハッピーエンド？）をしっかりと確認したい。

2021（令和3）年9月27日記